

第2回 小浜市北陸新幹線新駅周辺エリア 基本計画策定委員会

令和8年3月13日（金）

18：00～20：00



ミラプロ（若手未来プロジェクト）
公式キャラクター「ほくりん」

資料目次

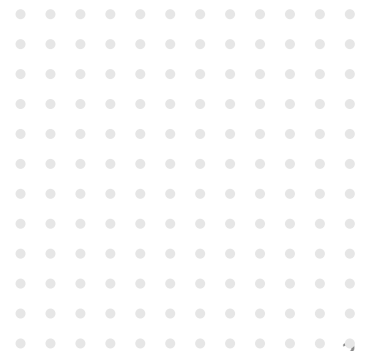
P.3 全体について

P.8 『小浜市新まちづくり構想』 のアップデートについて

P.25 『小浜市新幹線駅周辺エリア基本計画』 の検討について

P.34 今後のスケジュール

全体について



0. はじめに

◆第1回策定委員会のふりかえり（委員からのご意見の抜粋）

<計画の作り方についてのご意見>

- 市民WSは今回の計画の肝であり、**市民の意見を踏まえた形**としてほしい。
- 越前たけふの新駅など、まずは**参考事例の課題を分析**することが重要。
- 今の**老朽化した建物をスマートな建物に作り直す・集約**するなど、夢があるものを希望する。
- **自分たちの地域に誇り**を持ってもらうため、計画の段階から夢を持たせることが大事。
- **開業後にもまちが変わっていくことを考慮**して、ゆとりをもった計画を立案することが必要。
- 交流拠点とすると多機能となりがちなので、**必要な施設をきちんと議論**した方がよい。
- ビジョンを作ることで乱開発を防ぐことができる。将来の世代に選択肢を残すような、**柔軟性を踏まえたビジョン**にしてほしい。

0. はじめに

<まちづくりの方向性についてのご意見>

- 小浜市の地域のためだけでなく、**20数年後の日本全体の子ども達のため**にもなるという視点を入れる。
- **海、山などがある小浜の良さを活かしたまちづくり**をしてほしい。
- 若狭エリア、全国的にもこのルートである必要性を述べるべき。**全国的な国土強靱化、震災に備える、全国的な高速交通網**として重要であるという視点を踏まえてまちづくりを考えていることを打ち出す。
- 他の駅とは異なる**京都と19分、大阪と38分という距離感**という性質を活かすべき。

<導入機能・施設についてのご意見>

- 若狭エリア全体で機能導入、開発を考えることが必要。若狭エリアで**民間の投資を呼び込むような魅力的なコンテンツ**を考える。
- 海から離れた新駅周辺に**防災拠点**をもっておく。

<交通結節についてのご意見>

- 高浜町、美浜町など**周辺地域からのアクセス**を考えることが重要。
- 在来線の**J R 小浜線との接点**をどう考えるかが重要。（新高岡駅のように在来線駅からの接続をシャトルバスで確保するなど）

0. はじめに

本策定委員会では、今後、以下の2つの計画の検討について、ご意見を頂くことを目的としています。

◆『小浜市新まちづくり構想』

※令和2年6月に市が策定済み

※6月頃までにアップデート案を作成予定

新幹線開業を見据えた市のまちづくりの基本的な方向性を示すもの（市全体を対象）

北陸新幹線開業のインパクトを活かして、

- 市として大事にしたいこと、キャッチフレーズを設定
- まちづくりの基本的方向と、ターゲット別にどんなまちを提供するか？をイメージで整理

◆『小浜市新幹線駅周辺エリア基本計画』

※11月頃までに計画案を作成予定

新駅周辺の整備コンセプトや、具体的にどのような機能・施設、土地利用が望ましいかを示すもの（新幹線駅周辺エリアを対象）

新駅周辺において、

- 『小浜市新まちづくり構想』を実現するために、必要な機能の抽出
- 新幹線駅周辺の土地利用や交通網の考え方を整理

0. はじめに

以下のようなアウトプットを計画に記載することを見据えて、本策定委員会では、各種の検討調査結果や事務局案を提示し、委員の皆様にご意見を伺います。

参考)『小浜市北陸新幹線新駅周辺エリア基本計画』のアウトプットイメージ

計画で最終的に掲載する土地利用ゾーニング図のイメージ

計画の目次構成（現時点のイメージ）

1. 計画の概要・目的

2. 対象地の現状・市民意向

3. 新駅周辺エリアのコンセプト
および基本方針

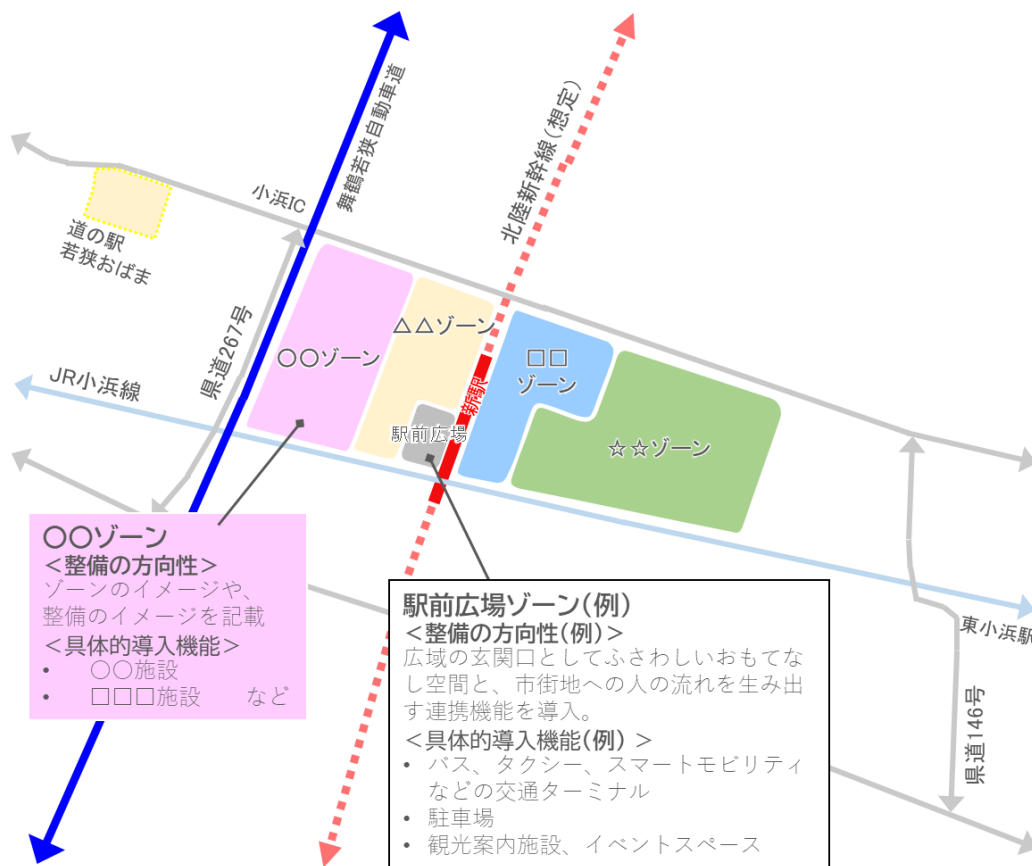
4. 整備計画

(1)土地利用ゾーニング

(2)導入機能・施設イメージ

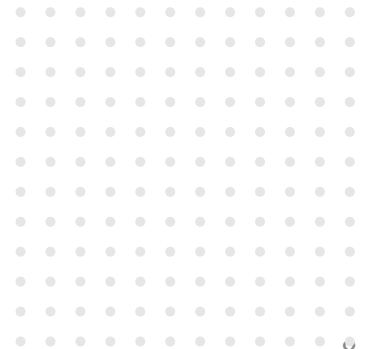
(3)アクセス交通・地区内動線計画

(4)整備スケジュール(短中長期)



※上記は、検討イメージの一例であり、内容や区域等が確定しているものではありません。

『小浜市新まちづくり構想』のアップデート について



1. 新まちづくり構想およびエリア基本計画の概要

◆『小浜市新まちづくり構想』アップデートの方針

- 『小浜市新まちづくり構想』は令和2年に策定された北陸新幹線の全線開業のインパクトを活かしたまちづくりの基本的な指針です。
- 敦賀・新大阪間に係る小浜市域のおおよその駅位置・ルートが示されたことを受け、**実現化に向けた構想の見直し**を行います。



- 市民のニーズを把握し、新たなニーズを踏まえアップデートを行うことが重要と捉え、**令和8年1月18日(日)に第1回市民ワークショップを実施**しました。**5月頃に第2回を予定**しています。
- また、**4月頃に若者(小学生・中学生・高校生・大学生)へのアンケート調査**を実施予定です。



第2回（本日）および第3回の委員会では、市民の皆さんの意見を反映した
『小浜市新まちづくり構想』のアップデートのキーワード等について、
意見交換させていただきます。

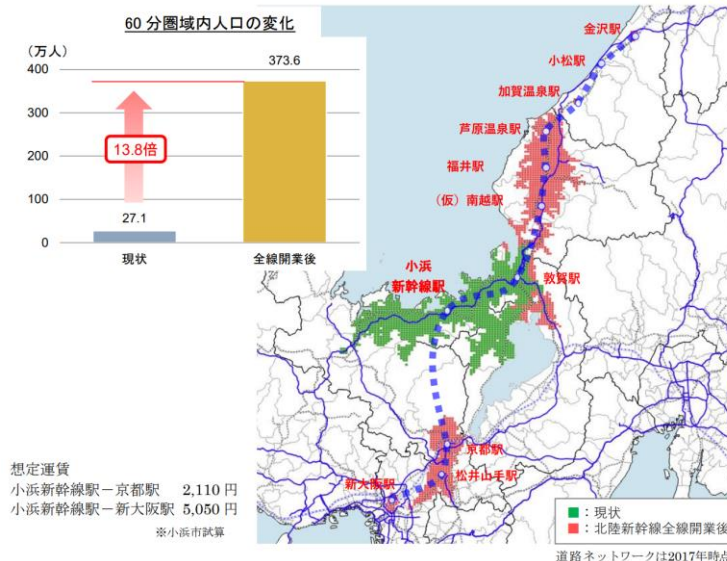
2. 新駅整備に関する小浜市の現状

◆新幹線新駅が整備されることによるメリット

- 関西圏への移動時間が1時間圏内に、特に京都は大幅に近くなります。
- 首都圏へも新幹線のみで移動が可能となります。



出典：福井県北陸新幹線建設促進同盟会「北陸新幹線パンフレット(2018.3)」、国土交通省より作成



開通すると
小浜-京都間が19分
小浜-新大阪間が38分
小浜-東京間も大幅に短縮

出典：小浜市新まちづくり構想

2. 新駅整備に関する小浜市の現状

◆対象地周辺の土地利用現況



出典：令和3年度都市計画基礎調査

※出典の図を基に土地利用状況の現況等を追加

2. 新駅整備に関する小浜市の現状

◆地域資源



インベツからの風景



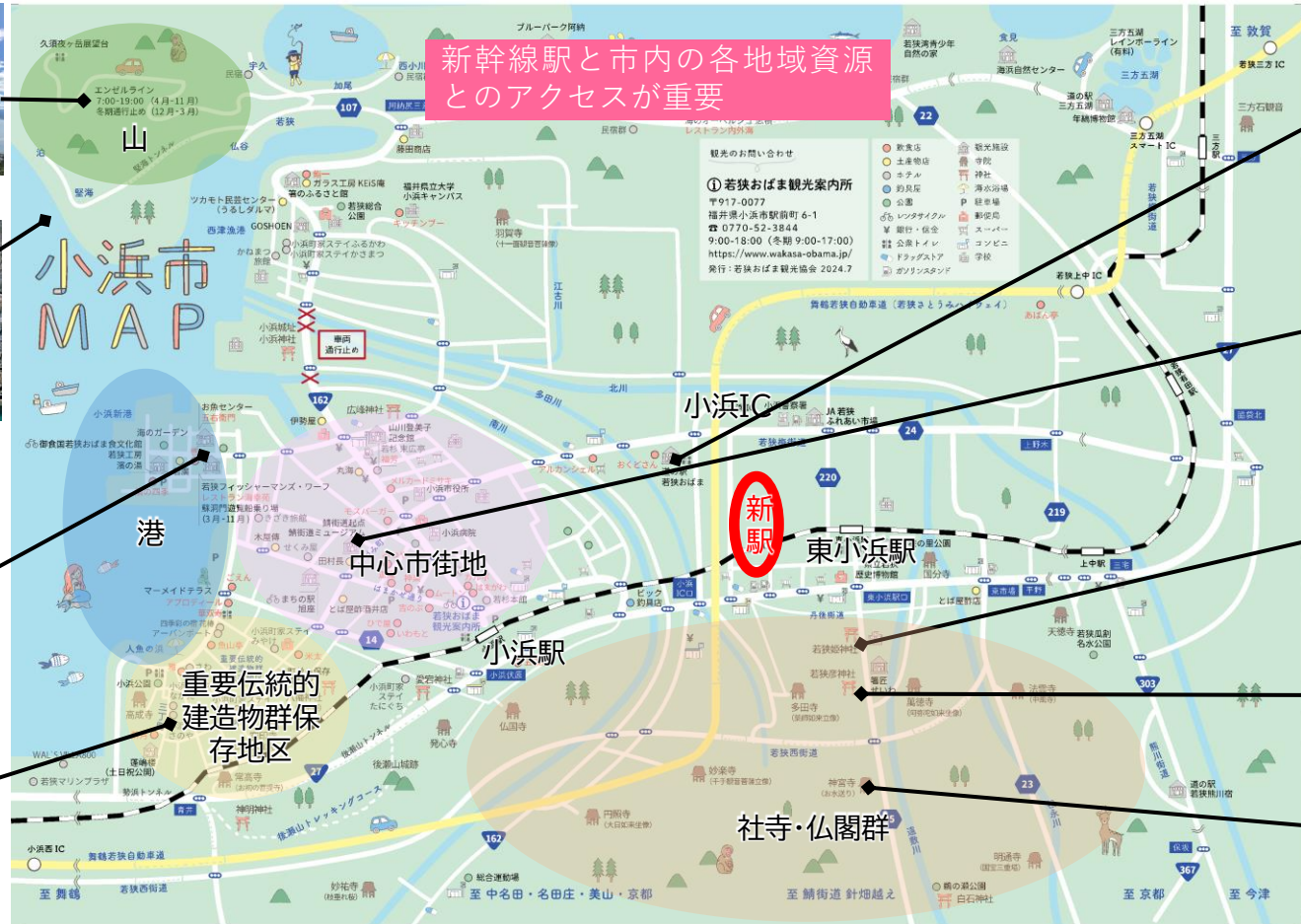
蘇洞門めぐり



若狭フィッシャーマンズ・ワーフ



三丁目



道の駅 若狭おばま



鯖街道ミュージアム



若狭姫神社



若狭彦神社



神宮寺(お水送り)

出典：小浜市公式 若狭おばま観光サイト「まるっとおばま」

※出典の図を基に新駅の位置や観光施設等を追加

2. 新駅整備に関する小浜市の現状

◆ 関西とのつながり

- 小浜湊は海外や日本海沿岸各地とつながる「海の道」と都とつながる「陸の道」の結節点
- 小浜は「御食国」として塩や海産物など豊富な食材を都に運び、都の食文化を支えてきた地



- 海産物や塩を京都に運ぶ「鯖街道」の歴史的ストーリーは日本遺産に認定されている

- 京都とは歴史的なつながりが大きいですが、現在は車で約1時間半～2時間、電車で特急・在来線を利用して**2時間**と遠い
- 新幹線が開通すると京都まで**19分**と**約1/6の時間**で行けるようになる

- 東大寺の「お水取り」は小浜より送った水をくみ上げる儀式で約1300年も続く行事

2. 新駅整備に関する小浜市の現状

◆交通ネットワーク

- JR小浜線は東西方向の広域的な交通を担う主軸となっています。
- 市内にはコミュニティバス「あいあいバス」が小浜駅を起点に運行しています。
- 現状で新幹線駅に最も近い宮川線は、月・水・金のみ運行で午前・午後の1便しかありません。



出典：小浜市ホームページ（小浜市あいあいバス路線図）

※出典の図を基に新駅の位置とJR西日本バスを追加

毎日運行路線	泊線
	田烏線
	池河内線
	小屋・須縄線
	小屋・谷田部線
	名田庄線 <大和交通>
隔日運行路線	健康管理センター線
	宇久・西小川線
	太良庄・国富線
	宮川線
	下根来・今富線
	鯉川・加斗線

<JR西日本バス>

211 若江線

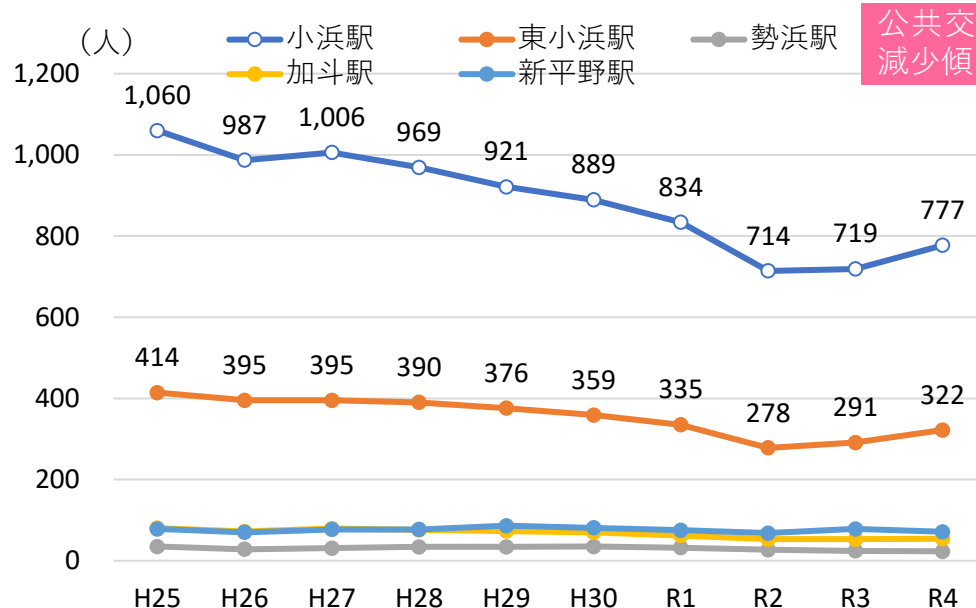
・小浜駅～遠敷～(若狭町)
上中～(滋賀県) 近江今津駅

2. 新駅整備に関する小浜市の現状

◆交通ネットワーク（利用者数）

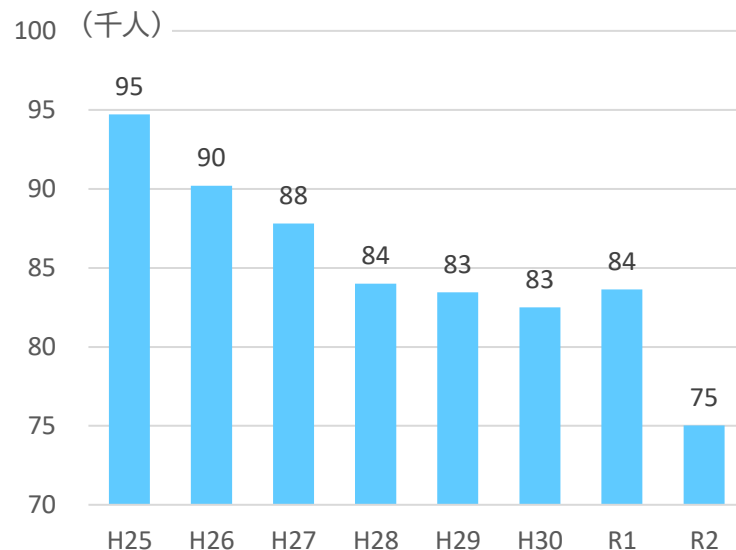
- JRの1日平均の乗車人員は減少傾向で、令和2年に新型コロナの影響で大きく減少しましたが、その後やや回復しています。
- あいあいバスの利用客数は、令和2年度に大きく落ち込んでいますが、それ以前から減少傾向は続いています。

JR線市内各駅利用者数（日平均）の推移



資料：小浜市統計書

あいあいバスの年間利用者数の推移

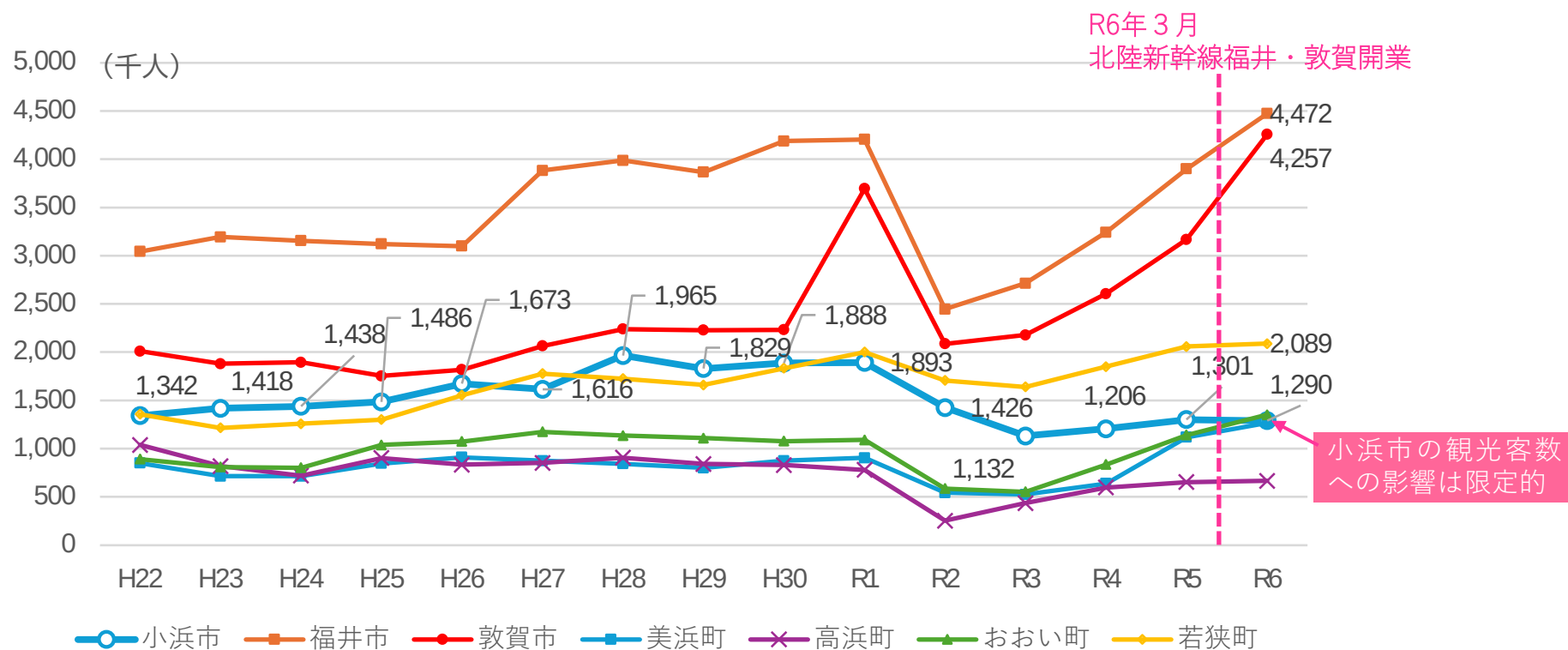


資料：小浜市地域公共交通計画

2. 新駅整備に関する小浜市の現状

◆観光入込客数

- 令和2年から3年にかけて新型コロナの影響により観光客が大きく減少しましたが、R6年3月に北陸新幹線が延伸開業し、福井市・敦賀市は大きく観光客が増加しています。



2. 新駅整備に関する小浜市の現状

◆モビリティ・DXの技術の進展

- 近年、自動運転、空飛ぶ車、パーソナルモビリティなどの技術進展は著しく、将来の駅に求められる機能が変化していく可能性があります。

■モビリティ拠点としての高度化

- ・ シームレスな移動結節点として、新幹線 × 在来線 × バス × 自動運転車 × 空飛ぶクルマ × パーソナルモビリティ、など

<自動運転 RoAD to the L4事例>



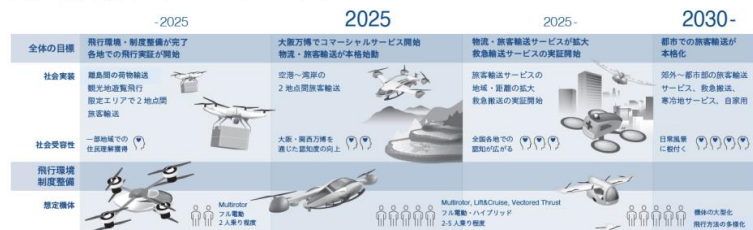
千葉県柏市の柏の葉キャンパス駅から東京大学柏キャンパスまでの一部区間で実施

出典：経済産業省HP

<空飛ぶ車の実装に向けた取組>



空の移動革命ロードマップ

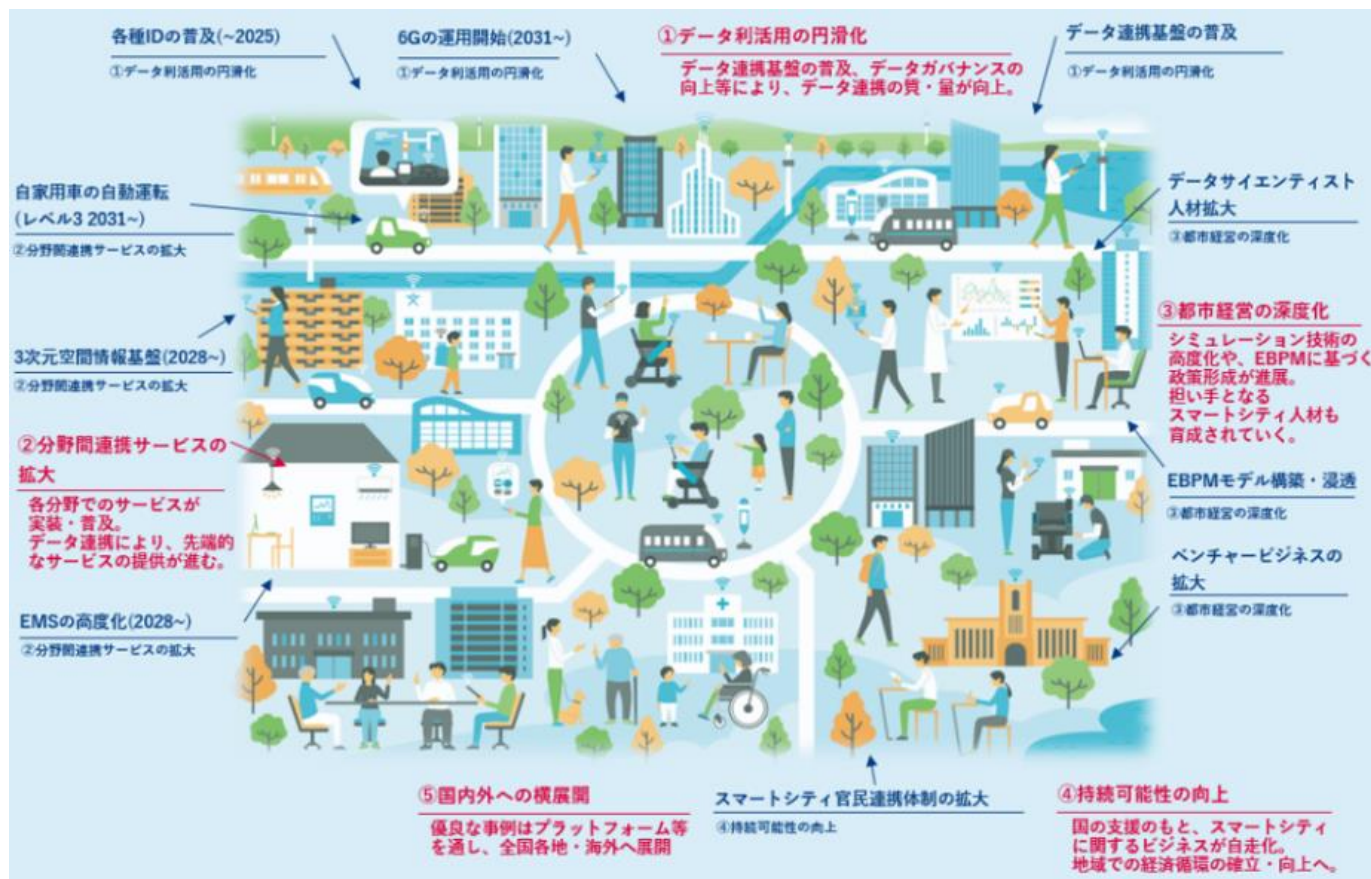


出典：国土交通省「Advanced Air Mobility in JAPAN 2021」

2. 新駅整備に関する小浜市の現状

■ デジタルを活用したスマートシティ化

- 国が提唱する「Society5.0」を支えるIoTやAIなどの先端技術により暮らす“人々”のまわりではさまざまな便利な“サービス”が生まれ、都市全体の在り方を劇的に変化させる可能性があります。



3. 上位関連計画での新幹線駅の位置づけ

◆県・市の上位関連計画での新駅周辺エリアに関する記述（一部抜粋）

新駅周辺エリアは、「自然環境との調和を図りながら、良好な居住環境の形成や先端産業の誘致を進め、子育て層や若者等の次世代の担い手を育む」とされている。

【和久里地区】

■小浜上中都市計画区域マスタープラン
良好な居住環境を形成するとともに、自然環境や田園風景に調和した土地利用を図る。

【新幹線駅周辺】

■小浜上中都市計画区域マスタープラン

・「土地利用や都市基盤整備の状況・見通し」、「周辺の営農環境、自然環境への影響」、「周辺市町も含めた都市構造への影響」等を勘案して、市街地開発事業等の見通しをふまえ、適正かつ合理的な土地利用を検討する。

■福井県高速交通開通アクション・プログラム（新幹線小浜市附近駅周辺エリア）

- ・新幹線駅ができることによる大都市との近接性を活かし、文化的・健康的な暮らしを楽しみ、子育てしやすい居住エリアを形成する。
- ・Uターン者や地元に残る次世代の若者が関西に通勤したり、地元でクリエイティブに働くなど、活躍できる地域を形成する。
- ・新たな玄関口となる新幹線小浜市附近駅周辺の地域について、舞鶴若狭自動車道小浜ICや道の駅、小浜駅周辺の市街地との関係・つながりを考えながら、まちづくりの検討を進める。

【県道小浜上中線沿い（今富地区～遠敷地区）】

■第6次小浜市総合計画

郊外大型店の進出が予想されるため、中心市街地の活性化等もあわせて、本市全体の都市計画に整合させた規制・誘導が必要であり、新幹線駅周辺の土地利用計画をもとに、都市計画および立地適正化計画等を見直し、コンパクトシティの実現をめざす。

【小浜市の中部から東部の内陸地】

■小浜市企業誘致戦略

「小浜の先端産業誘致エリア」として、市の基盤産業や成長産業、研究機関などの誘致を進める。

【平野地区】

■小浜上中都市計画区域マスタープラン

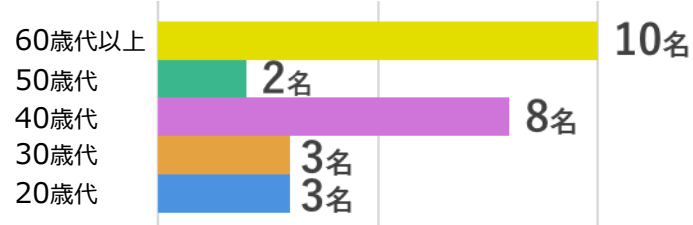
新たな産業拠点として、工業の利便性を増進できるよう工業地の配置を図る。

4. 新幹線開業に対する市民の声(第1回WS結果)

◆ワークショップの概要

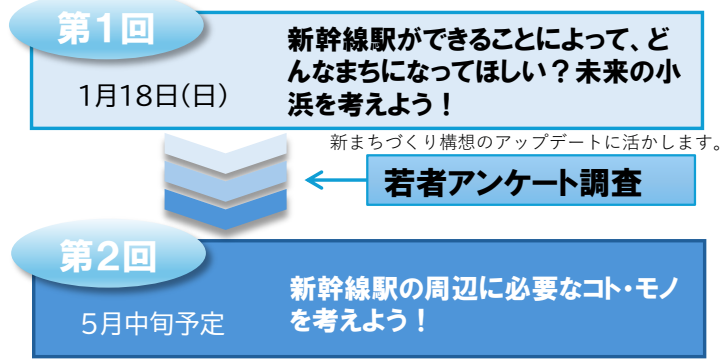
- 第1回ワークショップでは、26名が参加し、4班にわかれて意見交換を実施しました。
- 市民目線、来訪者目線で未来の小浜市の姿に対し意見やアイデアを出しました。

第1回の参加者 合計26名（男性23名・女性3名）



	日時	ワークショップの内容
第1回WS	令和 8 年 1 月18日	テーマ：新幹線駅ができることによって、どんなまちになってほしい？未来の小浜を考えよう！ ● 市民目線としてこんなまちになってほしい ● 多くの来訪者にまちに来てもらうには？知ってもらいたいことは？

今後の流れ



- 次回は今回の意見とあわせ、若者アンケート調査の結果も踏まえながら具体的に新駅周辺に必要なものや土地の使い方等について皆さんのアイデアをいただく予定です。

4. 新幹線開業に対する市民の声(第1回WS結果)

◆意見の概要 (抜粋)

市民目線で

都会では当たり前でも、小浜の住民が「できたらいいな」と思うこと

★子どもの選択肢が広がるまち

- 様々な習い事や遊び場、体験・経験をさせてあげることができる
- 大阪・京都への大学や専門学校へ通学できる
- 卒業後の就職の選択肢も広がる



子ども

★若者の欲求を満たす新駅周辺

- 子どもだけで安全に遊べる広場・公園
- 駅直結の駅型商業施設や映画館などのレジャー施設
- アリーナや小浜市文化会館でのスポーツ・音楽・芸術・文化イベント等が楽しめる

★小浜に住みながら都市と交流できるまち

- 都会へのアクセスが容易になり、誰もが色々な習い事、娯楽等に触れることができる
- 京都・大阪に飲みに行ける



大人

★働く場の選択肢が増えるまち

- 小浜に住みながら都市部（京都・大阪）への通勤が可能
- 託児施設、保育所の時間にしばられない、母親が自由に職を選べる
- 企業誘致することで都会から働きに来てもらえる、若者が県外に出ていけない

★通院できることで安心なまち

- 駅までは公共機関で行け、そこから新幹線に乗って京都・大阪の病院へ通院・入院が可能



高齢者

★移動がしやすいまち

- 新駅まで運転しなくても移動できる新しいモビリティでつながる
- 利用ニーズにあわせた駐車場

全ての市民

来訪者目線で

都会の人が持っていない“小浜ならではの魅力”が、来たい理由

★小浜市の魅力ある観光資源を活かす

- 地場産業、豊かな自然資源、歴史文化資源、祭り等を活かした体験メニュー、周遊ツアー
- 小浜市の人の魅力の活用
- 外国人にも対応できる語り部の育成



観光客

★新たな魅力を作る

- 駅前のシンボル、温泉、飲食施設・レジャー施設等

★情報発信・インフラの整備

- 地場産業、レアな情報の発信、外国人客対応（アプリ・通訳等）
- 通信インフラ、交通インフラの整備

★地域特性を活かした働く場の提供

- 電気を安く提供できる地域特性を活かした企業誘致
- 若狭の食を活かした働く場



働く人

★人が来る(行来しやすい)仕掛け

- 県外から働きに来る人口の増加にもつながる商業施設
- 新駅や在来線駅近くでの宿泊施設

★スローライフを堪能できる住宅

- 安い土地代で都会の人の住居を小浜市に整備・開発

★移住者・Uターンにやさしい支援

- 自然を活かした子育て層の移住を促進、手厚い子育て支援補助
- 移住者、Uターン、Iターンへの特典、補助



移住・Uターン者

★魅力ある施設の誘致

- 大学、介護施設、子どもが遊べる施設等

4. 新幹線開業に対する市民の声(第1回WS結果)

◆WSによる未来の小浜市の姿

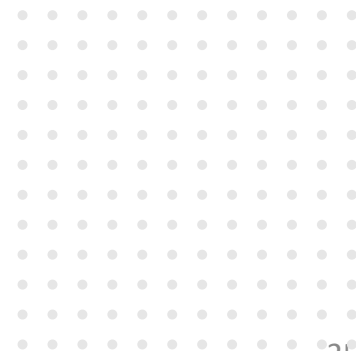


5. 新まちづくり構想に反映するキーワード

基本的方向 (現行計画の柱)	新たなニーズ	構想への反映方針
①生活の質の向上「小浜暮らしの可能性の拡大」 通院、通勤、都会の文化に触れる、子どもの多様な学び環境	● 子どもの選択肢(遊び・体験、進学、就職)が広がる ● 新幹線駅周辺でのレジャー、スポーツ・文化などが楽しめ若者の欲求が満たされる ● 日帰り出張が可能となり、家族との時間が増加する ● 安全な暮らしを確保する防災拠点	➢ 都会に行くことでの多様な行動変化だけでなく、選択肢が増加するという視点 ➢ 小浜市の新たな玄関口となる新幹線駅での新たな機能追加による生活の質の向上 ➢ 若者が地元でクリエイティブに働くなど、活躍できる環境づくり
②移住定住の促進「新たなライフスタイルの創造」 移住、サテライトオフィスで勤務、地域との関わり	● スローライフを堪能できる住宅の整備、自然を活かした子育て層の移住を促進、手厚い子育て支援補助 ● 大学誘致や介護施設誘致で子育て層からお年寄りまで移住を促進	➢ 新幹線駅周辺での教育・福祉・医療等の機能追加による子育て層だけでなく、高齢者も含めた移住・定住促進 ➢ 文化的・健康的な暮らしを楽しみ、子育てもしやすい居住環境の提供
③交流人口の拡大「世界から誘う日本海側の玄関口機能の充実」 観光客の増加、JRを利用する客の増加、車を使わない観光	● 小浜市の魅力ある観光資源(豊かな自然資源を活かした体験、神社仏閣、国宝、祭、小浜の人)を活かした観光の提供 ● 新たな観光魅力(温泉、飲食・レジャー)の創出 ● マニアックな情報発信、外国人対応の情報提供 ● 歩きたくなるまち、綺麗なまち ● 全国的な国土強靱化、震災に備える、全国的な高速交通網として重要	➢ 今ある観光資源を活かしつつ、新しい観光資源を追加することで相乗効果を高める視点 ➢ 小浜市の魅力を伝える人などの情報発信や外国人対応の視点 ➢ 市街地と新幹線駅、各観光地等を車以外でつなぐだけでなく歩くという視点
④産業・教育の振興「次世代を拓く 人と技術の育成」 新たな企業の立地、研究活動の地、観光産業が元気に	● 電気を安く提供できる地域特性を活かし、AIを使った野菜・魚工場 ● 新幹線を活用した若狭の食材等の流通 ● 新駅や在来線駅近くでの宿泊施設、県外から働きに来る人口の増加にもつながる商業施設の整備で人が来る(行来しやすい)仕掛けを作る ● 若狭エリア全体での民間を呼び込む魅力的なコンテンツ	➢ 地域特性を活かした新たな産業、物流拠点としての産業という視点 ➢ 宿泊や商業・飲食機能など人が来やすい環境整備の視点

これらのキーワードを踏まえ、新まちづくり構想のアップデート案を作成していきます。

『小浜市北陸新幹線新駅周辺エリア 基本計画』の検討について



6. 基本計画の検討の方向性

◆基本計画を検討する上で、重視すべき視点（案）

小浜市新まちづくり構想

【目指す姿】

スマート&スローシティ 御食国若狭おばま
～あたらしく、こちよく、あなたらしく～

新幹線・先端技術を
取り入れた
「スマートなまち」

+

豊かな地域を継承する
「スローなまち」

【基本的方向】

- ① 生活の質の向上「小浜暮らしの可能性の拡大」
- ② 移住定住の促進「新たなライフスタイルの創造」
- ③ 交流人口の拡大「世界から誘う日本海側の玄関口機能の充実」
- ④ 産業・教育の振興「次世代を拓く 人と技術の育成」

小浜市北陸新幹線新駅周辺エリア基本計画

1. 計画の概要・目的

2. 対象地の現状・市民意向

3. 新駅周辺エリアのコンセプト
および基本方針

4. 整備計画

- (1) 土地利用ゾーニング
- (2) 導入機能・施設イメージ
- (3) アクセス交通・地区内動線計画
- (4) 整備スケジュール(短中長期)

構想を踏まえて
計画を検討

基本計画で、土地利用や導入機能等を検討するための重要な視点

視点①

小浜市内の既存の市街地・地域資源と新駅周辺エリアの連携

視点②

京都との結びつきを中心に、関西圏等との近接性を活かす広域拠点形成

視点③

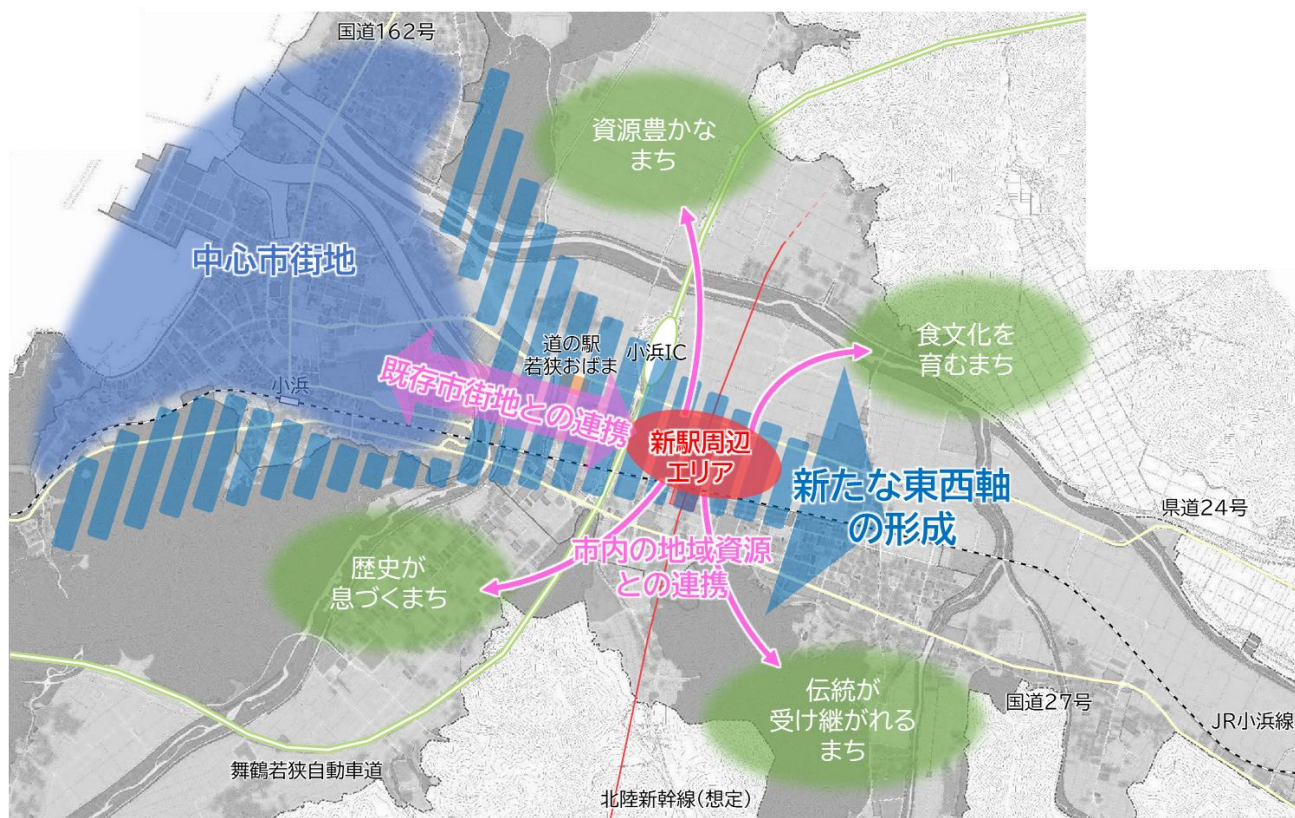
将来の変化に対応し、アップデートしながら進むまちづくり

これらの視点を踏まえて、今後、新駅周辺のコンセプトや必要な導入機能、土地利用ゾーニングを検討していきます。

6. 基本計画の検討の方向性

視点① 小浜市内の既存の市街地・地域資源と新駅周辺エリアの連携

- 新駅の周りだけで新たなまちを完結させるのではなく、既存の中心市街地や山間部・海岸部の地域資源と連携する拠点となり、市全体の都市構造が強固になるような、東西の都市軸を形成することが重要です。



※NTTインフラネットの地図をもと図として視点の概念図を作成

地図：NTTインフラネット

6. 基本計画の検討の方向性

視点①の参考事例

越前たけふ駅

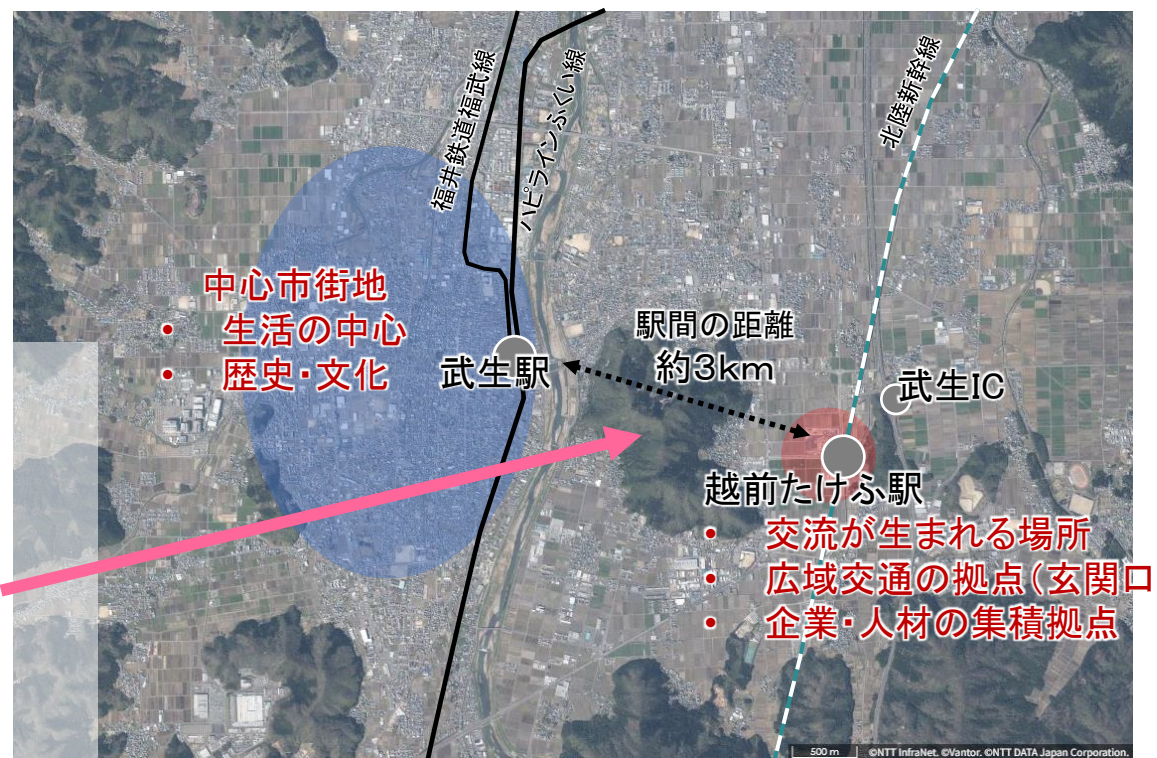
(北陸新幹線／福井県越前市)

新幹線新駅と在来線の駅（中心市街地）の距離感や関係性が似ている事例です。

■ 中心市街地と新駅をつなぐ二次交通

- ・ 予約のりあいタクシー
(デマンド交通の実証実験中)
- ・ タクシー
- ・ 高速バス
- ・ レンタカー、カーシェア
- ・ シェアサイクル

※開業当初は新駅⇄中心市街地のシャトルバスを運行していたが、令和7年3月に運行終了している

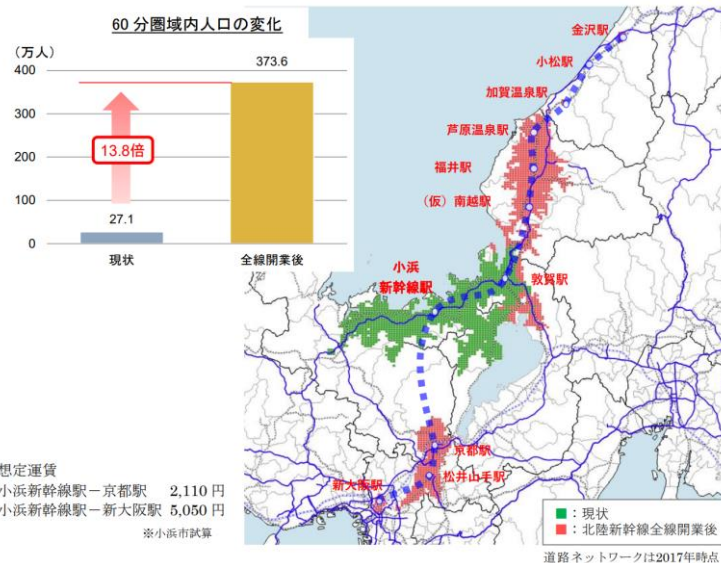


出典：NTTインフラネットの地図を基に情報を追記

6. 基本計画の検討の方向性

視点② 京都との結びつきを中心に、 関西圏等との近接性を活かす広域拠点形成

- 特に京都と19分で結ばれる立地特性は、小浜市にとって他都市にはない大きな強みであり、特に京都の文化や人の動きと連続する裏庭のような関係性を活かした居住・交流・滞在の受け皿となる機能導入が重要です。
- 首都圏ともアクセス向上することを副次的効果として捉え、まちづくりの方向性を明確にします。



出典：福井県北陸新幹線建設促進同盟会「北陸新幹線パンフレット(2018.3)」、国土交通省より作成

6. 基本計画の検討の方向性

視点②の参考事例

本庄早稲田駅

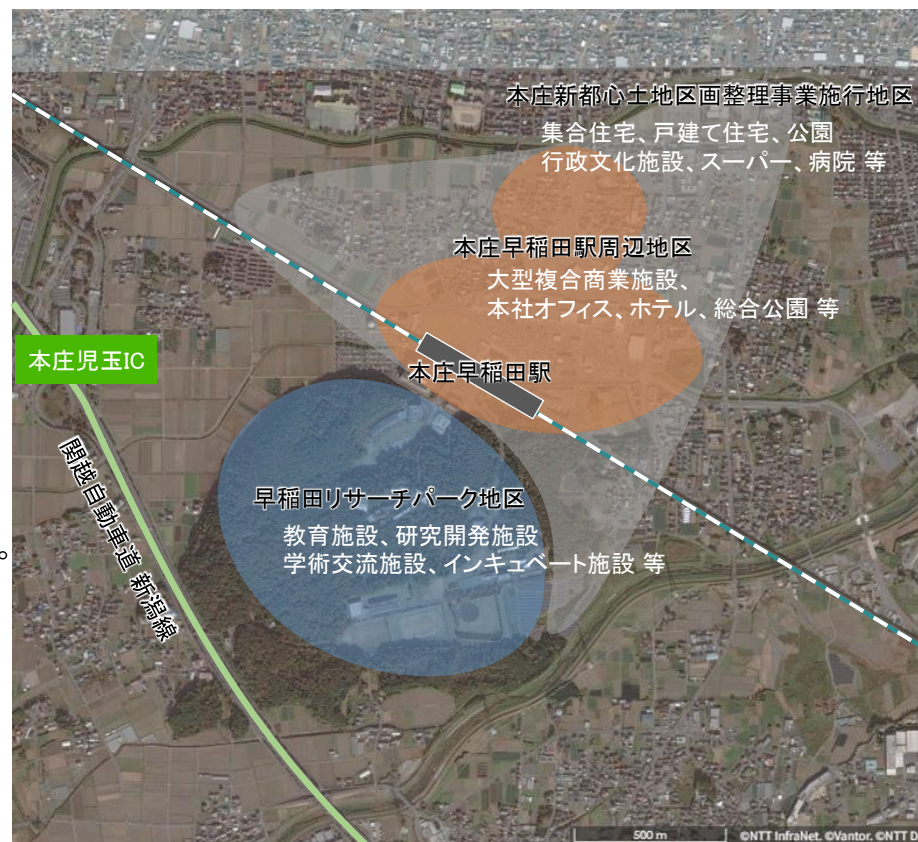
（北陸新幹線、上越新幹線／埼玉県本庄市）

東京と50分で移動可能となった新駅周辺において、「都心からアクセス可能」で「まとまった土地活用が可能」な立地を生かして、**特定の機能を集積させている事例**です。（本庄早稲田駅の場合は研究関連施設を導入）

また、都心への通勤等で見込まれる転入層をターゲットとした住宅等の整備を進めています。
※都心との時間距離は小浜市の新駅よりも長いですが、
新駅周辺の特徴的な土地利用の事例のひとつとして挙げています。

■整備内容

- ・ 関越道本庄児玉ICとの短距離接続
- ・ 「早稲田リサーチパーク地区」（早稲田大学のキャンパス、研究施設、関連施設）の整備
- ・ ホームセンター業界大手「株式会社カインズ」の本社移転などの企業立地
- ・ 1,300台を超える民間有料駐車場の設置

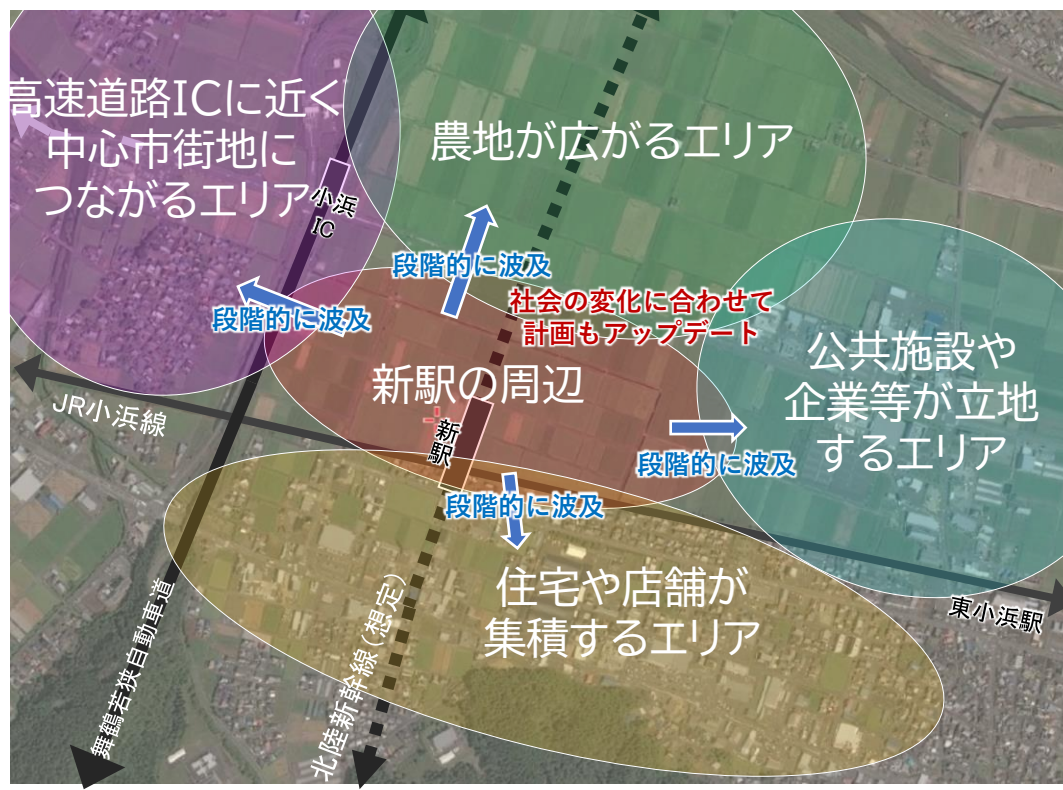


出典：NTTインフラネットの地図を基に情報を追記

6. 基本計画の検討の方向性

視点③ 段階的に広がり、将来変化に対応してアップデートするまちづくり

- 新駅開業以前の短中期でも土地利用がエリアごとに順に進み、新駅開業後も、徐々に土地利用が波及し拡大していくような、長期を見据えた整備を進めていくことが重要です。
- あらかじめ用途や機能を固定しすぎるのではなく、将来のモビリティ技術やデジタル技術の導入も視野に入れ、長期的にアップデート可能な余白を持った計画を検討します。



6. 基本計画の検討の方向性

視点③の参考事例

佐久平駅

(北陸新幹線／長野県佐久市)

段階的に開発区域を拡張していった事例です。

佐久平駅は平成9年10月の北陸新幹線駅の開業に伴い、在来線の小海線の駅も同時に設置され、開業しています。

■1995（H6）年～第1期土地区画整理事業開始

- ・ 佐久駅周辺土地区画整理事業 60haの大規模エリアを整備
- ・ 駅舎・駅前広場・アクセス道路を整備

■～2003（H15）年 事業終了

- ・ 大規模商業施設を中心とした広域的な都市機能が集積

■2017（H29）年～第2期土地区画整理事業開始

- ・ 大規模商業施設の事業者などから拡張の要望により第1期の南に隣接する地区21.4haを組合施行により土地区画整理事業を施行



出典：NTTインフラネットの地図を基に情報を追記

6. 基本計画の検討の方向性

視点③の参考事例

越前たけふ駅 (北陸新幹線／福井県越前市)

段階的に開発区域を拡張している事例
です。

徐々に周辺の土地利用を拡大していくステップを計画書に記載しています。

- 駅直近から、企業・人材等が集積しやすい施設（道の駅・企業研究施設）の整備からはじめ、企業等の動向を踏まえて、さらに産業集積や商業集積を図るなど、段階的に整備していく方針を記載。



ステップ1

基本機能及び企業・人材等が集積しやすい施設の整備

ステップ2

農業用インフラの確保を考慮し、東側から開発

ステップ3 (パターン1)

一般県道、越前たけふ駅線より北側からの開発
※パターン2の場合はステップ4

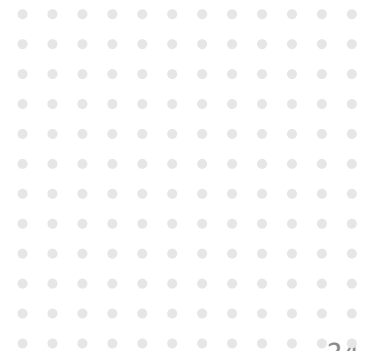
ステップ3 (パターン2)

一般県道、越前たけふ駅線より南側からの開発
※パターン1の場合はステップ4

※パターン1とパターン2は企業の進出動向によって前後することが想定される。

出典：NTTインフラネットの地図を基に情報を追記

今後のスケジュール



7. 今後のスケジュール

